

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	019570009		
法人名	有限会社 ファイン		
事業所名	グループホーム ファイン 1F		
所在地	岩見沢市1条西13丁目2-4		
自己評価作成日	令和5年5月1日	評価結果市町村受理日	令和5年5月23日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&JigvogyoCd=0195700091-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

各ユニットが3つの空間に分かれており、利用者3人に職員1人の3+1=4人家族の様なイメージで生活することを心掛けてゆったりとした空間の中で個人の尊厳を大切にしながら本人らしい生活が出来るように支援させて頂いております。建物裏には畑があり毎年色々な種類の野菜を作り、近隣住民の方が定期的に畑を見に来て手入れ方法や野菜の育て方を教えてくれます。野菜の生り具合を見に行き利用者と職員と一緒に草取り・水やり・野菜の収穫をしております。お天気の良い日には畑に面したバルコニーで心地よい風と太陽の光を感じながらゆったりとお茶を飲んで過ごしています。毎年ドライブや外出行事を積極的に行っておりますが感染症対策の為、近隣を散歩することに重点を置き気分転換をするようにしました。屋外で行っていた夏祭り、地元地域のホテルの宴会場で行っていた敬老会はグループホーム内で感染対策をしながら行いました。災害対策としては令和元年8月に自家発電装置を設置することにより地域の皆様にも安心していただけるグループホーム作りを目指しております。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和5年5月17日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

JR岩見沢駅から徒歩10分程の住宅地に位置する2ユニットの事業所である。町内会との行事的交流は自粛であるが、散歩時に庭を見せて貰いながら会話をしたり、野菜のお裾分けや事業所菜園で収穫した野菜を利用者が届けるなど地域との良好な関係が窺える。共用空間には3か所の居間が設けられ、其々にソファやテーブル等を配置し好みの場所で寛いで過ごす事のできる環境を整えている。天候の良い時期は、畑につながるテラスで飲食などを楽しむ機会を取り入れ、利用者の楽しみ事ともなり人気である。朝夕は業者献立であるが、昼食は職員が利用者に喜んで貰える食を提供し、誕生日食や季節の行事食、畑の野菜を取り入れて調理したり、パンの日、手弁当風、パーティー形式、取り寄せなど多彩である。毎週日曜日は午前午後に分けての外出支援を目標にし、菜の花畑やバラ園、栗沢や毛陽町へのドライブ外出にも力を入れている。医療面では1週間分の健康状況の記録や医師や訪問看護師と適宜、連携を図り、早期発見、早期治療に至った事例もある。家族へは写真満載の事業所便りと個別便りを送付しており、家族から生活の様子がわかり嬉しいとの言葉もある。活動のアレンジメントフラワーでどうしたら良いか迷っていた利用者へ、「お好きな花はどれですか？」と職員は声かけをしている。同じことを何回も根気よく伝える職員の姿もある。困り事に手を差し伸べる職員の対応がほのほのと伝わってくる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 グループホーム ファイン 1F	理念をユニット内に掲示してあります。理念に沿った支援を心がけています。	事業所が目指すサービスのあり方を理念に示し、パンフレットへ明示し利用契約時に家族等に説明している。支援の方法で判断に迷った時は、理念に立ち返り方向性を考えるなど、職員間で話し合いを持ち理念の共有と実践に向けている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入、コロナ禍の為思ったような交流は出来ていませんが昨年は子供神輿が再開して短時間ですが交流出来ました。	住民とは散歩時に庭を見せて貰いながら会話をしたり、野菜のお裾分けを貰ったり、事業所からも畑で収穫した野菜を届ける事がある。子ども神輿の来所では子ども達と利用者の心温まる交流の機会となった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍の為、現状できませんでした。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回入居者様の様子や事業所の現状などを文章にて報告しています。運営推進会議はコロナ禍の為書面のみとなっています。	書面開催で運営し、利用者状況、職員状況、ヒヤリハット・事故報告、活動状況等を家族を含む構成員へ報告していたが、6月より参集開催を計画しており、災害対策や地域交流等について協議する予定である。	会議は、事業所からの報告と共に構成員から意見や要望等を受け、双方向的な会議となる事が望ましく、議事録にアンケート用紙を添えるなど、参加が難しい家族からの意見や要望等も反映できる仕組み作りに期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月入居状況等の報告をメールにて提出しています。運営推進会議事録の書面を提出しています。必要時には電話やメールを利用して協力関係を築くように努めています。	市の担当部署とは毎月の入居状況報告や運営推進会議議事録をメール送付し、相談事項は電話で意見を仰ぐなど、適正な運営の維持に向け協働関係を築いている。昨年度は保健所の指導や助言を得て感染症対策に取り組んだ。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	各ユニットにマニュアルを設置していつでも自由に見られるようにしています。コロナ禍の影響で思ったような研修はできませんでしたが書面や全体会議の資料に取り上げています。	身体抑制等の廃止推進に関する指針を定め、3か月に1度、身体拘束廃止委員会を開催し、これらに係る内部研修を年2回行っている。現在、主治医の指示を受け、身体拘束を実施している利用者があり、経過観察・検討記録を実施し対応に努めている。玄関は防犯上、夜間のみ施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	各ユニットにマニュアルを設置していつでも自由に見られるようにしています。コロナ禍の影響で思ったような研修はできませんでしたが書面や全体会議の資料に取り上げて管理者と職員が密にコミュニケーションを取って虐待が見過ごされることがないように注意を払っています。		

グループホーム ファイン

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)		外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	コロナ禍の為職員には内部研修として資料配布としました。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前の面談時から資料を用いて説明し電話やメール等でも対応し、入居時の契約書・重要事項説明書は納得していただけるよう丁寧に説明するよう心がけています。			
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族が来所時や電話の際には近況を伝え話しがしやすく配慮しご意見・要望を聞くように努めています。仕事で忙しいご家族とはメール連絡しています。ご意見・要望には申送りノートに記入、担当者に伝える等して情報共有しています。	利用者からは、「喫茶店に行きたい・ラーメンを食べに行きたい」等の要望があり、今後の情勢を見極め実現に向けての考えである。家族からの「どんどんなんでもやらせて下さい・歩かせて下さい」との意見には、介護計画に盛り込み、具体的にサービスに反映している。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や提案を聞いたり、管理者が現場に入り意見交換しています。個々の面談では意見を聞き日常の業務やケアに活かすようにしています。	職員とは時間を設けて個別に面談し、意見や意向等を聞き取り働きやすい環境の整備等に向けている。現在、職員個々に役割を作り、職員同士が話し合っ調整する態勢に臨んでおり、業務遂行力や支援力の向上が全体のものとなるようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	普段から職員個々の状況を把握し、一年に1回の個人面談の他に必要に応じて面談をおこなって働きやすい環境を心掛けて整備を行っているが難しい場面もあります。資格取得の為補助金制度があります。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍の為法人内外の研修が想定していたより出来ませんでした。管理者とリーダーが密に連携し職員の力量を見極め日々業務の中で職員個々にあったアドバイスをしています。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍のため同業者の事業所に立ち入らないようにしているため、電話等で情報交換等しています。法人内の併設の訪問介護事業所とは定期的に情報交換等しています。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人、ご家族と面談し今までの生活歴をうかがっています。在宅時のサービス事業所にも様子を伺い、要望を聞きご本人らしく生活できるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居の際は管理者・担当ケアマネージャー、職員等の二人体制でご本人・ご家族に面談したり見学に来ていただき、不安なこと要望等に耳を傾けグループホームとして何が出来るか、どういう対応をしていくか説明し一緒に考えていくように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当グループホームの支援内容と理念を理解していただき、ご家族・ご本人の要望を聞き出来る限りの対応することを説明し、必要に応じて他のサービスの説明をして関係機関と連携に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で個々の有する能力に応じ役割を持っていただき入居者・職員お互いに必要とする存在だと意識して支えあい、家族のような雰囲気で行生活することを心がけています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍の為面会制限や予約にて面会緩和する等状況にあわせて行い電話では近況を報告したり、近況のお手紙では極力入居者が言った言葉をそのまま載せて状況をわかりやすくつたえ、様子の情報を共有することで関係性を築くようにしています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	感染予防の為、現在は面会制限しているため今後は状況を見ながら緩和して馴染みの方や場所との関係が途切れないようにしていきたいと思えます。	応接室での家族面会や手紙や電話の取り次ぎを行い、家族との関係を支えている。携帯を所持している利用者が友人と連絡を取り合い、玄関前付近で交流する事もあるなど、本人にとっての大切な関係が途切れないようにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者個々の性格や相性、身体状況を見極め孤立しないよう配慮しています。その時々で状況を見極め職員が介入し利用者同士が嫌な思いをしないように努めています。		

グループホーム ファイン

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も、何かあればいつでも相談にのることをご家族に伝えていきます。転院先や他施設でスムーズにいくようにフォローするよう努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中でご本人の思いを尊重しご家族の意見も聞き、状況を見て実現できるように会議にて話し合いをして希望・意向の把握に努めています。	家族からの情報による検討と共に、利用者の希望や意向については日々の暮らしの中で直接、聞き取ることを基本としつつ、表出が困難な場合は言動を見極め把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの生活歴をご家族に聞いたり、在宅時利用していたサービス事業所に話を伺ったりします。また、ご本人との会話、ご家族との会話から得た情報も職員間で情報共有しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の記録、申し送りノートへの記入で日常生活の様子、身体状況を把握し職員間で情報共有し把握しています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人の様子をよく観察し、ご本人の意向や面会・電話等で家族の意向を聞き、医療関係者からの情報や職員からの情報をもとに計画を作成しています。	朝夕の申し送り時に利用者状況を話し合い、新たな発見や特別な変化等の情報を蓄積してモニタリングにつなげている。医療関係者の情報等や本人、家族の意向を反映させ、また、日常の必要な支援を分かりやすく文章化して実行可能な計画を策定している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	プライバシーに配慮した個別のファイルに日々の様子や気が付いたこと、実践したことを記録に記入し、そのファイルをもとに職員間で情報共有し計画の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人や家族の状況に応じて病院受診・訪問美容・訪問看護・訪問歯科等の利用をしている。コロナ禍以前は他事業のサービス利用で定期的に外出していたが現在は休止されています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍の為出来ていませんが、以前のように行事が出来るようになった時の為にボランティアさんとは定期的に連絡をとっています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人・ご家族が希望する医療機関があれば柔軟に対応し、特になければ協力医療機関に定期的に往診に来ていただいております。必要時には電話にて相談に乗って頂いたりと良好な関係を築いて、適切な医療を受けられるように支援しています。	内科・歯科の協力医療機関による往診体制を整え、定期及び必要時に医療が受けられる。訪問看護師による健康管理支援時に本人の週間情報を伝達している。前傾姿勢や歩行不安定から他科受診し症状の早期発見に至るなど、適切な医療を受けられている。	

グループホーム ファイン

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと契約し週1回健康状態チェックが行われ、緊急時には電話対応、訪問等の支援を受けている。往診時の看護師とも連携をしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	医療機関への添書、情報交換や相談を電話等にて行い連携をしています。退院後の受け入れについても医療機関・ご家族・職員間で話し合いをして受け入れ態勢の準備をしています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際に重度化した場合の指針を説明し書面に同意を得ています。重度化した場合はご家族の意向・要望を聞き取りし医療機関と情報交換しながら、職員間で支援の方向性を共有し、体調の変化にあわせてご家族と都度話し合いをして支援に取り組むようにしています。	「グループホームにおける重度化した場合の対応に係る指針」を利用契約時に説明し同意を得ている。状態変化時には医師の意見等を踏まえ関係者間で今後の方針を取り決めている。昨年度は1名の看取り支援に尽力した。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	各ユニットにマニュアルを置いて確認しています。救急救命講習が一部の職員がした受講できていないので研修を受講出来るようにしていきたいと思えます。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を行っています。コロナ禍以前は町内の方には避難訓練の様子を見てもらいました。現在は感染症対策の為町内の方の参加はありませんが日頃から声をかけ顔なじみになり協力体制を築いています。停電に備えて自家発電装置設置済みです。	令和4年5月は日中想定、11月は夜間想定の方針を策定し、避難訓練と地震想定の実施した。階下搬送方法の共有がなされている。自家発電装置を導入し災害備蓄品の強化に至っている。自然災害発生時における業務継続計画(BCP)を策定中である。	地域の実情に鑑み、地域住民との協力体制を新たに構築する意向であり、その実現に期待すると共に、災害時の収容避難所先で想定される生活課題について協議するなど、運営推進会議を通じ災害対策の強化に期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	今までの生活歴や個々の性格、プライバシーに配慮した言葉かけに気をつけています。全体会議で取り上げて話し合いをしています。	プライバシーや接遇に関する研修を行っている他、全体会議でプライバシー等に関する事項の話し合いを行い、書面で配布し日々のケアにつなげている。	言葉かけ等についての課題に対し一般職員間でも解決できる環境の構築に期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の思いを第一優先にとらえ、自己決定が難しい場合は選択できるような働きかけをしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の意思やペースで生活していただけるよう、出来る限り思いをくみとって職員の都合の支援にならないように気をつけて支援を行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節感が感じられるような服装と一緒に選んでいます。訪問美容のカットでその人らしい身だしなみが出来るように一緒に髪形を考えたりと支援しています。		

グループホーム ファイン

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の残像機能に配慮し調理・盛付・配膳・片づけを行っています。畑の野菜と一緒に収穫して下準備や調理をしたり、季節を感じるメニューにしたり行事食は目で見て楽しんでいただけるようにしています。	朝と夕食は食材業者作成の献立を利用している。昼食は利用者の意向を取り入れ、パン屋のパンやラーメン、ジンギスカンやお好み焼きパーティーなどを開催している。おやつには畑で収穫した枝豆や母の日にはケーキなども楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスに配慮して献立メニューを考えて個々の状態に応じた提供。摂取状態、水分量を個々に記録し訪問看護師用のシートにも記録し確認しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	コロナ禍の為歯科医の定期往診が減りましたが、必要時には往診治療に来てもらい、口腔ケアのアドバイスをいただいております。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の記録シートに排泄記録しパターンを認識して周囲に配慮した声掛けを行いトイレ誘導しています。申し送りでは個々の排泄量や間隔、を伝え失敗を減らせるように努めています。	個人記録に記録した後、週間ごとに健康管理記録に排泄状況をまとめている。利用者の様子や表情を読み取り、適切なタイミングで声かけ誘導を行うことで、失敗を減らしトイレでの排泄が行えるようになり排泄の自立へとつながった事例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事や水分、乳製品を取り入れたり、散歩や体操等毎日体を動かして便秘予防に努めています。難しい場合は訪問看護師、協力医療機関に相談して個々にあった対応をしています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴を楽しめるよう入浴剤の使用や職員との談話で思いをくみ取るようにしています。畑仕事をしたとき等入浴日以外でも入れるよう声をかけています。入りたくない時は無理をせず入れそうな時に入っています。	月・火・木・金曜日に1人当たり週2回の入浴支援を午後の時間帯を中心に行っている。見守りでの入浴を行う利用者もいる。体調に応じて入浴日を変更したり、シャワー浴での対応する場合もある。入浴時は職員との会話が利用者の楽しみになっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間安眠ができる様日中は適度な活動を心掛けています。ホールに臥床できるソファと一人掛け用のソファがあり気軽に休めるようになっています。状況に応じてリビングで過ごしたり自室で休息できるように支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情報はファイルしてあり薬の目的・副作用・用法・用量について職員がすぐに確認できるようにしてあります。変更があるときは医療ノート・申し送りノートにも記入し、薬のセット・服薬時は複数の職員で確認しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴のアセスメントから好きな事、得意な事を把握し個々にあった役割や楽しみを提供できるように努めています。		

グループホーム ファイン

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍以前のような外出行事は出来ていませんが、散歩や畑作業は変わらず行っています。ドライブに行ったり、感染対策がとれるお店を選んで買い物に行っています。	天候の良い日は事業所周辺の散歩や畑作業、バルコニーや花壇の花の手入れなど外気に触れる機会を多く設けている。毎週日曜日を外出の日とし、果樹園や栗沢町へのドライブでアイスを食べるなど積極的に外出行事を設けている。感染症に配慮しながら受診などの際に買い物をすることもある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理が可能で本人の希望した場合は所持できる様配慮していますが、現状コロナ禍で外出が減り、買物も職員が代行して行っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話がかかってきたときは職員が取り次ぎ、リビングに子機があり居室内で気兼ねなく話ができるよう支援しています。施設からご家族宛におくる郵便物の中にご本人が書いた手紙やメッセージを同封しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの他に応接間のようなテレビ、テーブル、ソファ、間接照明でくつろげる空間が2か所あり、テーブルとソファは全て手作り家具で落ち着いた空間になっています。季節に合った飾りつけをしてリビングのペランダにはバルコニーがあり目の前には畑があり野菜や花の成長が見られ季節感が感じられるようにしています。	バルコニーに面している大きな窓のあるリビングは陽が差し込み明るく開放感のある空間になっている。リビングの他にもテーブルやソファの設置された共用空間を設けており、利用者の好きなところでゆったりと過ごす事ができる造りになっている。このほりなどの季節の手作りの飾りが施されている他、各テーブルには生花、壁面には利用者の写真などもあり家庭的で温かみを感じられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの他に小規模の応接スペース2か所、それぞれテレビ・ソファ・テーブルが設置してあり自由に好きな場所でくつろいだり、談笑できるような空間になっています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に以前からの馴染みの家具や小物等を置いていただくようにして環境の変化による混乱を少しでも少なくし居心地良く過ごせるように工夫しています。	カーテンとパネルヒーターが備え付けられている。以前から使用しているタンスなどの家具やテレビなどの家電製品、入居前から育てている観葉植物などを持ち込んでいる利用者もあり、以前からの生活が継続して行える、居心地のよい居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリー。必要箇所には手摺が設置されている。動線を意識してソファの位置をずらして掴まりながら安全に移動が出来、必要時には椅子に座って休憩が出来るように工夫しています。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	019570009		
法人名	有限会社 ファイン		
事業所名	グループホーム ファイン 2F		
所在地	岩見沢市1条西13丁目2-4		
自己評価作成日	令和5年5月1日	評価結果市町村受理日	令和5年5月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

各ユニットが3つの空間に分かれており、利用者3人に職員1人の3+1=4人家族の様なイメージで生活することを心掛けてゆったりとした空間の中で個人の尊厳を大切にしながら本人らしい生活が出来るように支援させて頂いております。建物裏には畑があり毎年色々な種類の野菜を作り、近隣住民の方が定期的に畑を見に来て手入れ方法や野菜の育て方を教えてくれます。野菜の生り具合を見に行き利用者職員が一緒に草取り・水やり・野菜の収穫をしています。お天気の良い日には畑に面したバルコニーで心地よい風と太陽の光を感じながらゆったりとお茶を飲んで過ごしています。毎年ドライブや外出行事を積極的に行っていましたが感染症対策の為、近隣を散歩することに重点を置き気分転換をするようにしました。屋外で行っていた夏祭り、地元地域のホテルの宴会場で行っていた敬老会はグループホーム内で感染対策をしながら行いました。災害対策としては令和元年8月に自家発電装置を設置することにより地域の皆様にも安心していただけるグループホーム作りを目指しております。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&JigvsoyoCd=0195700091-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和5年5月17日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--	--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をユニット内に掲示してあります。理念に沿った支援を心がけています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入、コロナ禍の為思ったような交流は出来ていませんが去年は子供禰神輿が再開して短時間ですが交流出来ました。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍の為、現状できませんでした。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回入居者様の様子や事業所の現状などを文章にて報告しています。運恵推進会議はコロナ禍の為書面のみとなっています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月入居状況等の報告をメールにて提出しています。運営推進会議事録の書面を提出しています。必要時には電話やメールを利用して協力関係を築くように努めています。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	各ユニットにマニュアルを設置していつでも自由に見られるようにしています。コロナ禍の影響で思ったような研修はできませんでしたが書面や全体会議の資料に取り上げています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	各ユニットにマニュアルを設置していつでも自由に見られるようにしています。コロナ禍の影響で思ったような研修はできませんでしたが書面や全体会議の資料に取り上げて管理者と職員が密にコミュニケーションを取って虐待が見過ごされることがないように注意を払っています。		

グループホーム ファイン

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	コロナ禍の為職員には内部研修として資料配布としました。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前の面談時から資料を用いて説明し電話やメール等でも対応し、入居時の契約書・重要事項説明書は納得していただけるよう丁寧に説明するよう心がけています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族が来所時や電話の際には近況を伝え話しがしやすいように配慮しご意見・要望を聞くように努めています。仕事で忙しいご家族とはメール連絡しています。ご意見・要望には申送りノートに記入、担当者に伝える等して情報共有しています。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や提案を聞いたり、管理者が現場に入り意見交換しています。個々の面談では意見を聞き日常の業務やケアに活かすようにしています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	普段から職員個々の状況を把握し、一年に1回の個人面談の他に必要に応じて面談をおこなって働きやすい環境を心掛けて整備を行っているが難しい場面もあります。資格取得の為補助金制度があります。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍の為法人内外の研修が想定していたより出来ませんでした。管理者とリーダーが密に連携し職員の力量を見極め日々業務の中で職員個々にあったアドバイスをしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍のため同業者の事業所に立ち入らないようにしているため、電話等で情報交換等しています。法人内の併設の訪問介護事業所とは定期的な情報交換等しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人、ご家族と面談し今までの生活歴をうかがっています。在宅時のサービス事業所にも様子を伺い、要望を聞きご本人らしく生活できるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居の際は管理者・担当ケアマネージャー、職員等の二人体制でご本人・ご家族に面談したり見学に来ていただき、不安なことや要望等に耳を傾けグループホームとして何が出来るか、どういう対応をしていくか説明し一緒に考えていくように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当グループホームの支援内容と理念を理解していただき、ご家族・ご本人の要望を聞き出来る限りの対応することを説明し、必要に応じて他のサービスの説明をして関係機関と連携に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で個々の有する能力に応じ役割を持っていただき入居者・職員お互いに必要とする存在だと意識して支えあい、家族のような雰囲気で行う生活を心がけています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍の為に面会制限や予約にて面会緩和する等状況にあわせて行い電話では近況を報告したり、近況のお手紙では極力入居者が言った言葉をそのまま載せて状況をわかりやすくつたえ、様子の情報を共有することで関係性を築くようにしています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	感染予防の為、現在は面会制限しているため今後は状況を見ながら緩和して馴染みの人や場所との関係が途切れないようにしていきたいと思えます。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者個々の性格や相性、身体状況を見極め孤立しないよう配慮しています。その時々で状況を見極め職員が介入し利用者同士が嫌な思いをしないように努めています。		

グループホーム ファイン

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も、何かあればいつでも相談にのることをご家族に伝えていきます。転院先や他施設でスムーズにいくようにフォローするよう努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中でご本人の思いを尊重しご家族の意見も聞き、状況を見て実現できるように会議にて話し合いをして希望・意向の把握に努めています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの生活歴をご家族に聞いたり、在宅時利用していたサービス事業所に話を伺ったりします。また、ご本人との会話、ご家族との会話から得た情報も職員間で情報共有しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の記録、申し送りノートへの記入で日常生活の様子、身体状況を把握し職員間で情報共有し把握しています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人の様子をよく観察し、ご本人の意向や面会・電話等で家族の意向を聞き、医療関係者からの情報や職員からの情報をもとに計画を作成しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	プライバシーに配慮した個別のファイルに日々の様子や気が付いたこと、実践したことを記録に記入し、そのファイルをもとに職員間で情報共有し計画の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人や家族の状況に応じて病院受診・訪問美容・訪問看護・訪問歯科等の利用をしている。コロナ禍以前は他事業のサービス利用で定期的に外出していたが現在は休止されています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍の為出来ていませんが、以前のように行事が出来るようになった時の為にボランティアさんとは定期的に連絡をとっています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人・ご家族が希望する医療機関があれば柔軟に対応し、特になければ協力医療機関に定期的往診に来ていただいております。必要時には電話にて相談に乗って頂いたりと良好な関係を築いて、適切な医療を受けられるように支援しています。		

グループホーム ファイン

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと契約し週1回健康状態チェックが行われ、緊急時には電話対応、訪問等の支援を受けている。往診時の看護師とも連携をしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	医療機関への添書、情報交換や相談を電話等にて行い連携をしています。退院後の受け入れについても医療機関・ご家族・職員間で話し合いをして受け入れ態勢の準備をしています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際に重度化した場合の指針を説明し書面に同意を得ています。重度化した場合はご家族の意向・要望を聞き取りし医療機関と情報交換しながら、職員間で支援の方向性を共有し、体調の変化にあわせてご家族と都度話し合いをして支援に取り組むようにしています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	各ユニットにマニュアルを置いて確認しています。救急救命講習が一部の職員がした受講できていないので研修を受講出来るようにしていきたいと思えます。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を行っています。コロナ禍以前は町内の方には避難訓練の様子を見てもらいました。現在は感染症対策の為町内の方の参加はありませんが日頃から声をかけ顔なじみになり協力体制を築いています。停電に備えて自家発電装置設置済みです。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	今までの生活歴や個々の性格、プライバシーに配慮した言葉かけに気をつけています。全体会議で取り上げて話し合いをしています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の思いを第一優先にとらえ、自己決定が難しい場合は選択できるような働きかけをしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の意思やペースで生活していただけるよう、出来る限り思いをくみとって職員の都合の支援にならないように気をつけて支援を行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節感が感じられるような服装を一緒に選んでいます。訪問美容のカットでその人らしい身だしなみが出来るように一緒に髪形を考えたりと支援しています。		

グループホーム ファイン

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の残像機能に配慮し調理・盛付・配膳・片づけを行っています。畑の野菜と一緒に収穫して下準備や調理をしたり、季節を感じるメニューにしたり行事食は目で見て楽しんでいただけるようにしています。			
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスに配慮して献立メニューを考えて個々の状態に応じた提供。摂取状態、水分量を個々に記録し訪問看護師用のシートにも記録し確認しています。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	コロナ禍の為歯科医の定期往診が減りましたが、必要時には往診治療に来てもらい、口腔ケアのアドバイスをいただいております。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の記録シートに排泄記録しパターンを認識して周囲に配慮した声掛けを行いトイレ誘導しています。申し送りでは個々の排泄量や間隔、を伝え失敗を減らせるように努めています。			
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事や水分、乳製品を取り入れたり、散歩や体操等毎日を動かして便秘予防に努めています。難しい場合は訪問看護師、協力医療機関に相談して個々にあった対応をしています。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴を楽しめるよう入浴剤の使用や職員との談話で思いをくみ取るようにしています。畑仕事をしたとき等入浴日以外でも入れるよう声をかけています。入りたくない時は無理をせず入れそうな時に入らせていただいています。			
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間安眠ができる様日中は適度な活動を心掛けています。ホールに臥床できるソファと一人掛け用のソファがあり気軽に休めるようになっています。状況に応じてリビングで過ごしたり自室で休息できるように支援しています。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情報はファイルしてあり薬の目的・副作用・用法・用量について職員がすぐに確認できるようにしてあります。変更があるときは医療ノート・申し送りノートにも記入し、薬のセット・服薬時は複数の職員で確認しています。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴のアセスメントから好きな事、得意な事を把握し個々にあった役割や楽しみを提供できるように努めています。			

グループホーム ファイン

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍以前のような外出行事は出来ていませんが、散歩や畑作業は変わらず行っています。ドライブに行ったり、感染対策がとれるお店を選んで買い物に行っています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理が可能で本人の希望した場合は所持できる様配慮していますが、現状コロナ禍で外出が減り、買物も職員が代行して行っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話がかかってきたときは職員が取り次ぎ、リビングに子機があり居室内で気兼ねなく話ができるよう支援しています。施設からご家族宛におくる郵便物の中にご本人が書いた手紙やメッセージを同封しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの他に応接間のようなテレビ、テーブル、ソファ、間接照明でくつろげる空間が2か所あり、テーブルとソファは全て手作り家具で落ち着いた空間になっています。季節に合った飾りつけをしてリビングのベランダにはバルコニーがあり目の前には畑があり野菜や花の成長が見られ季節感が感じられるようにしています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの他に小規模の応接スペース2か所、それぞれテレビ・ソファ・テーブルが設置してあり自由に好きな場所でくつろいだり、談笑できるような空間になっています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に以前からの馴染みの家具や小物等を置いていただくようにして環境の変化による混乱を少しでも少なくし居心地良く過ごせるように工夫しています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリー。必要箇所には手摺が設置されている。動線を意識してソファの位置をずらして掴まりながら安全に移動が出来、必要時には椅子に座って休憩が出来るように工夫しています。		

目標達成計画

事業所名 グループホーム ファイン

作成日：令和 5年 5月 22日

市町村受理日：令和 5年 5月 23日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	コロナ禍の為運営推進会議は書面開催となっており、状況を報告のみとなっていたので構成員、ご家族の意見や要望を取り入れる仕組みになっていなかった。	運営推進会議は報告のみならず構成員から意見や要望を受け、双方向的な会議になるようにする。	対面での会議を再開し構成員からの意見や要望を聞き、議事録にアンケートを添える等参加が難しいご家族からの意見や要望を取り入れるようにする。コロナの感染状況によって書面開催となる場合も同様の対応をする。	12カ月
2	35	災害時、避難先での入居者様の日常生活について話し合っていないかった。	入居者様が避難所生活になった場合、少しでも安心して生活できるようにする。	運営推進会議の場を利用し災害時入居者様が避難所生活で想定される生活の課題等を地域の方と話し合う。	12カ月
3	36	「ちょっと待って」等の不適切な言葉がけが出る時がある。	不適切な言葉がけが無くなるようにする。	コロナ禍で研修が不十分なことがあったので今年度はロールプレイングも取り入れて研修の充実をはかり、現場で職員同士が話し合って解決できるような仕組みを作る。	12カ月
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。